



一般社団法人 亀岡青年会議所 2020年度スローガン

## 想いを紡ぎ未来を形に

~ Always be a challenger! ~

かめおか新世紀ビジョン2020

「世界に誇る環境先進都市(エコロジックミュージアムかめおか)」の創造



目次

~事業報告~ 6月WEB例会 7月例会 にのうみ特集記事「作麼生」の拡大版 「委員長にせまる」	1
~事業報告~ 第6回理事会・第7回理事会 出向者報告（香川賢人君）	2
~事業報告~ 近畿地区京都ブロック協議会 「SDGsクリニック」 「オンラインサロン」	3
作麼生（そもさん） （人見一輝運営幹事の巻） 仙人掌	4

## 6月WEB例会



講師の中川眺様と楠理事長



六月十一日(木)青少年共育委員会による六月例会がWEBにて行われました。  
 二〇二一年一月一日より全国初のプラスチック製レジ袋の禁止条例が施行される事を踏まえ、た例会を開催しました。  
 例会前日には亀岡JC全体LINEにおいて、世界における海洋プラスチック問題についての動画を配信し、当日例会に参加できないメンバーを取り残すことなく、メンバー全員で問題共有をする設えをしました。  
 例会当日は委員会プレゼンツにて日本におけるプラスチックごみ問題の動画をメンバーに視聴してもらい、動画後には亀岡市環境市民部環境政策課の中川眺様を講師にお迎えし、亀岡市におけるプラスチックごみの現状などを講演していただきました。亀岡市を流れる保津川に流れ着くごみについて、平成二十四年(令和元年)の「ごども海ごみ探偵団」の保津川調査データを元に、ごみの内訳等詳しい説明をもらい、そのデータを元に亀岡市がプラごみを削減していく第一歩として、買い物レジ袋の削減から始めようという取り組みが始まったと説明をいただきました。そして、例会終了後に講演を子ども達にも分かりやすく編集し、YouTubeにて六月末まで配信をしました。

## 7月例会「委員長にせまる」



七月九日(木)十九時~二十時十五分にて、七月例会をガレリアかめおか響ホールで開催しました。二月の例会以降、新型コロナウィルス感染拡大を懸念し、WEB例会で開催を対応してきましたが、三密を避け、ソーシャルディスタンスを保った会場設営とマスク着用等の十分な対策を講じ、四ヶ月ぶりに対面での開催となりました。  
 また例会前に、次年度理事長・監事選出委員選挙も執り行われ次年度に向けての活動も動き出しました。  
 七月例会は、にのうみ特集記事「作麼生」の拡大版『委員長にせまる』をテーマに、メンバー同士の互いの理解を深めるため、総務広報戦略委員会から尾松委員長、青少年共育委員会から田村委員長、人財創出委員会から鍵田委員長が登壇し、個別にインタビューが行われました。JC歴や職業、仕事の上で心掛けている事などの質問から始まり、好きな言葉や夢や目標、また人生の中で最も大変だった事をお話しいただき、各委員長の人の善さが大変伝わり、各委員長が長所と短所を分析し合い、各委員長の魅力を存分に引き出しました。JC生活の中で一番思い出に残っている事業の体験談を語り、JC事業の取り組みの重要性が再認識できた有益な時間となりました。

## 事業報告

### 第六回理事会

六月五日(金)第六回理事会が行われました。緊急事態宣言は解除となりましたが新型コロナウイルス感染症拡大を懸念して前回に引き続きZOOMアプリを活用してのWEB開催となりました。

報告事項として、緊急事態宣言解除により、七月例会をWEBではなくメンバーが集まったの開催に戻すにあたり、会場の選定や席と席の間隔がとれるかなどソーシャルディスタンスを考えた意見などが出ました。担当された事務局が意見を考慮して会場などの再選定などを早急に行うということとなりました。

審議事項では二月例会報告、六月例会開催、八月例会(臨時総会)開催の各議案について話し合われました。前回、前々回に引き続きとなった二月例会報告や六月例会開催を抱える田村委員長は緊張を隠せない様子でしたが議案書の訂正や例会の準備をしつかりと行うということで審議はまとまりました。

協議事項では九月例会開催に関する件として、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に自粛疲れなどを解消したいとして大規模なフェスを開催するという議案が提出されましたが、やはりコロナ問題が完全に収束していない事や安全に開催できるかなど厳しい意見が出ました。

### 第七回理事会

七月三日(金)JCLルームにて第七回理事会が開催されました。冒頭、楠理事長から緊急事態宣言発令後、初めて顔を合わせて理事会が出来ることを嬉しく思っていると挨拶がありました。

今まではZoomでの開催だった為、顔を合わせるとより熱い答弁が繰り広げられる理事会となりました。報告事項として、五月例会に関する件について櫻井副理事長に次年度へしっかり引き継ぐよう意見が出ました。

審議事項として、九月例会に関する件について人財創出委員会の鍵田委員長が審議上程されましたが、各理事役員から詰めめを指摘され、関本副理事長と再構築するよう取り下げとなりました。次の鍵田委員長の答弁に期待します。また、FT修了セミナーに関する件については、まだ準備不足だがFTメンバー全員参加し、JCに対する理解を深められるようなセミナーにしたいことと熱い答弁が繰り広げられました。



## 出向者報告

### 近畿地区協議会

### グローバルゼーション実現委員会

近畿地区協議会グローバルゼーション実現委員会の委員兼誰ひとり取り残さない宴会特別委員会大幹事をしています香川賢人です。

この委員会は会務副担当副会長として渡邊直前理事長、委員として森委員、谷口委員と私が亀岡青年会議所から出向しております。

「WITHコロナ」や「コロナ禍」と呼ばれる情勢に順応すべく、Zoomを利用してソーシャルビジネスやアイデアをブラッシュアップするワークショップを開講する予定です。JCが誇るグローバルネットワークを通じて共有し、世界が抱える問題を伝播する人材育成に取り組んで参ります。

**SDGs Practical Academy**のチャレンジ

企業と学生、パートナーシップで世界を変える

**SDGs Practical Academy**

～社会課題を解決するアイデアを共有し学びたい「大学生向けプログラム」～  
【大学のアイデア × 社人 × 経営者の力】

社会課題発見プログラム  
①世界の抱える課題、途上国の抱える課題について  
(講師 NPO法人グローブジャングル)

Day1 8月8日(土) 2020年  
②興味のある課題の探求  
③チームビルディング

課題解決実践プログラム  
①アイデア発想講座  
②課題解決案の創出  
③販促ブラッシュアップ

Day2 8月9日(日) 2020年

アイデアコンテスト「Solution of Solutions」  
Day3 9月19日(土) 2020年  
①アイデア発表  
②経営者との交流会

協賛: 日本経済新聞社, 読売新聞, 朝日新聞, 毎日新聞, 産経新聞, 読者サービス, JCI, 日本青年会議所



## 「SDGsクリニック」

## 近畿地区京都ブロック協議会 国際貢献委員会

四月二十三日(木)、五月十五日(金)、六月十九日(金)、七月十七日(金)に国際貢献委員会事業『SDGsクリニック』がZoomを活用して開催されました。

第一回目(四月二十三日)では、SDGsアンバサダーの俣野裕哉君(京丹後青年会議所)を講師として、①SDGsは誰が始めて、誰が広めようとしているのか?②なぜ2030年がひとつの区切りなのか?③SDGsを会社に取り入れることでどのようなメリットがあるのか?また、取り入れなかったらどのようなデメリットがあるのか?の質問に回答をいただきました。SDGs策定のプロセス、理念を学び、メリットとして企業価値の向上・新たな事業機会の創造・社会の課題への対応・生存戦略のツールになり、デメリットとして、ビジネスチャンスやリスクを見極める力が弱まる・企業の持続可能性についての対外的な企業向上を図れないなど伝えていただき、深く掘り下げながら説明をいただけ大変わかりやすい学び多きクリニックでした。

第二回目(五月十五日)では、前回に引き続きSDGsアンバサダーの俣野裕哉君に、『コロナウイルスとSDGs』をテーマに①世界で起こっている影響は?②日本で起こっている影響は?③世界の動きと日本の動き④なぜ、いまSDGsなのか講演をいただきました。新型コロナウイルスの影響で起こっている社会問題は、SDGsが掲げている目標に関わっており、今後SDGsを通してどの様に考えていくべきなのかを関連付けて考えていく機会となりました。新型コロナウイルスが世界に与えた影響は、悪いものだけでなく、経済活動が止まれば環境改善にもつながったことも学ぶことができ、経済・社会・環境の調和が大切な事を知ることにも繋がりました。

第三回目(六月十九日)では『アフターコロナとSDGs』をテーマに第一回、第二回の振り返り、グループディスカッションが行われました。グループディスカッションでは異業種での意見交換会でしたので、新型コロナウイルスの取り組みに違いがあり、また新型コロナウイルスの影響が仕事に出ている方と出ていない方、今は出ていないが今後出てくるであろうという意見があり、個々では手洗いの回数が増えたと言うメンバーも多く、違う視点からの意見や事例はこれからの取り組みの参考となりました。一人ひとりの意識を変え、自分たちには何ができるのかを考え、アフターコロナにピンチをチャンスにしているメンバーもおられ、行動してSDGs活動を継続して取り組んでいくことに繋がればと思います。

第四回目(七月十七日)では『ビジネスとSDGsを両立させる企業の取り組み』をテーマに日産スチール工業株式会社代表取締役社長西部清志様より講演をいただきました。講演ではSDGsの取り組み過程、成果、コロナ禍においてのSDGs等の講演により、SDGsに関連付けて考えると、商品によって様々な課題が解決できることや、SDGsを先に考えるのではなく商品やサービスがどのゴールにつながるのかを考えるなど、プロセスを学ぶことができました。

## 「オンラインサロン」

## JCMーブメント創造委員会

新型コロナウイルスの影響や緊急事態宣言の発令により京都ブロック協議会も活動の自粛ムードが続きます。委員会活動なども開催できていない状況です。そんな中、京都ブロックの広報を担当するJCMーブメント創造委員会へ榎田会長より「こんな時だからこそ青年会議所としての学びを届けたい」という事でオンラインサロンが企画されました。緊急事態の為、この企画は議案書などもなくとにかくスピード感を大事にし、現在では第三回まで配信されています。目的や効果もやってみる中で探っていくという事になりましたが、内容や会長の話など非常に好評であり、一部引用していますが、「WELLBEING」で取り上げられるなど予想外に注目される事業となりました。今後の配信も気になりますが、まずは第三回までをまだ見ておられない方はYouTubeで京都ブロック協議会オンラインサロンで検索してみてくださいねと思います。



## 作 麼 生 ~ふあみりいーダイアリー~

今号、インタビューをさせていただいたのは入会三年目の人見一輝君です。亀岡青年会議所の最年少二十代メンバーで、将来を担う人材であり、LOMや出向先でも大活躍をしている責任感のあるメンバーにお話を聞きたいと思います。

○はじめに家族や会社のことについてお聞きできますか。

**人見** 六人家族(自分・妻・長女・長男・次男・三男)で、祖父母、父母と同居し、賑やかな毎日を送っています。

会社は社長(父親)が起業した、人見鉄筋工業株式会社にて専務取締役を務め、従業員十五人ほどで京都府、大阪府、兵庫県の現場を中心に、京都御所・京セラドーム通路橋・京都スタジアム付帯工事や、亀岡市内のあゆみ保育園・花ノ木福祉医療センター・宇津根橋等々仕事をさせてもらっています。会社としてどのような仕事も断らず、迅速かつ丁寧な対応を心掛け、従業員さんには感謝を忘れず福利厚生を充実させていきたいです。

○コロナ対策でマスクを配られましたね。

**人見** 自治体にマスクを寄付させていただきました。また、得意先に配ったりして大変喜んでいただきました。従業員にもマスクを配布し感染症予防の徹底に努めています。

○そろそろJC活動について。組織改革して欲しいところや、改善できるのではと思われることを教えてください。

**人見** WEBを積極的に活用し、ドレスコードに関しても、構えないで例会などに出席できるように、より集まりやすく改善して欲しいです。また、一部のメンバーに負担がかかっている様ではないので、各事業の取り組みに対しても効率的な見直しが必要だと思っています。

○では、人見君の義理の弟であり、仕事においても一番信頼をおかれている庄林さんにお話しをお聞きしたいと思っています。人見君がJCをされてから成長を感じることや、庄林さんのJC評をお聞かせください。

**庄林** JC活動と仕事をしっかりと両立されていると思います。確かに忙しくなっているように感じますが、JC活動をされてからコメントや文章などが、らしく笑ったと感じています。JCについて詳しくわかりませんが、自分では出来ないJC活動をやって、挑戦していること自体凄いなと思います。

○人見君から庄林さんや従業員さんに一言お願いします。

**人見** なんやかんやと迷惑を掛けていると思いますが、更に会社をより良くするための学びを得て、会社を成長させるようにします。

○庄林さんから一言お願いします。

**庄林** 一生懸命取り組まれているのが伝わってきますので、今のスタイルで続けて下さい。



## 仙人掌

何か明るい話題はないだろうか？と思案するが、「みつからない」が率直な気持ちである。

とうとう、我がまち「亀岡」でも新型コロナウイルスの感染者が出た。緊急事態宣言解除後、一旦収まりつつあった新型コロナウイルスも、人が密集しだすと爆発的に増えてきている傾向にある。治療薬がない以上、一人ひとりが常識の範囲内で、節度のある行動をしていただきたいものだ。

そして近年、毎年のように起きているのが豪雨災害である。全国各地で被害をもたらし、たくさんの人命が失われている状況である。

「私達に今求められている事は何か？」

「一人ひとりの使命とは？」

困難な状況だからこそ青年会議所メンバーは英知と勇氣と情熱をもって活動してくれると信じているし、全国のJC仲間と相集い力を合わせ、メンバー一人ひとりが模索して、少しでも曇った心に日の光が差し込むようなアクションを起こしていただきたい。

今まで大変な年は幾度もあったが、ここまで活動制限のある年は記憶にない。

予定していたたくさんの方の事業が延期、中止になりメンバーのみんなは落胆の日々だと思ふ。でも、今からが亀岡青年会議所メンバーの真価が問われるのだ。

明るい豊かな社会の実現を目指して、一日も早く活動できる事を切に願う。